

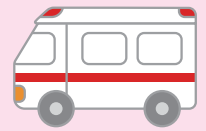
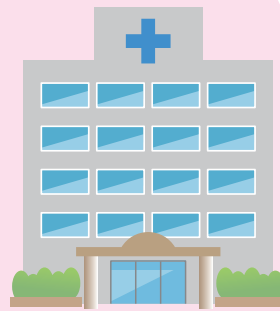
救急医療を守るために



救急車の適正利用

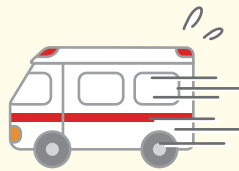
にご協力ください

緊急性の高いかたをできるだけ早く搬送するため、救急車の適切な利用が必要です。



救急車は本当に必要な時だけ適正に利用を

軽症者が救急車を呼ぶことで、重症患者からの要請に対応が遅れ、**救える命が救えなくなる可能性があります。**



※軽症者の割合は、搬送件数の2割を超えています。

緊急性のない夜間受診はやめ、できるだけ日中の時間帯に受診を

「平日・昼間は仕事があるから」「夜間の方が空いているから」などの理由で、休日・夜間に救急医療機関を安易に利用すると、緊急性の高い人が受診できなくなる可能性があります。日中、早めの受診を心がけましょう。



普段から「かかりつけ医」を持ちましょう

かかりつけ医がいれば、ちょっとした体調の変化にも気づきやすいため、病気の予防や早期発見、早期治療が可能になります。気になることは早めに相談しましょう。



厚生労働省
「かかりつけ医」ってなに？

出所：厚生労働省 | 「かかりつけ医」ってなに？ (mhlw.go.jp) を参考に作成



救急医療電話相談

「救急車を呼ぶ？病院へ行く？」迷ったときの相談窓口ダイヤルです。看護師等が病気やケガの状況を把握し、緊急性や応急手当の方法、医療機関などについてアドバイスします。

おとな

救急医療電話相談 (#7119)

受付時間：24時間対応

※概ね15歳以上

携帯電話からお電話いただく際は、「083-921-7119」にお電話ください。



山口県救急医療
電話相談 (#7119)
- 山口県ホームページ

子ども

救急医療電話相談 (#8000)

受付時間：19時～8時

携帯電話からお電話いただく際は、「083-921-2755」にお電話ください。



山口県小児救急医療
電話相談 (#8000)
- 山口県ホームページ

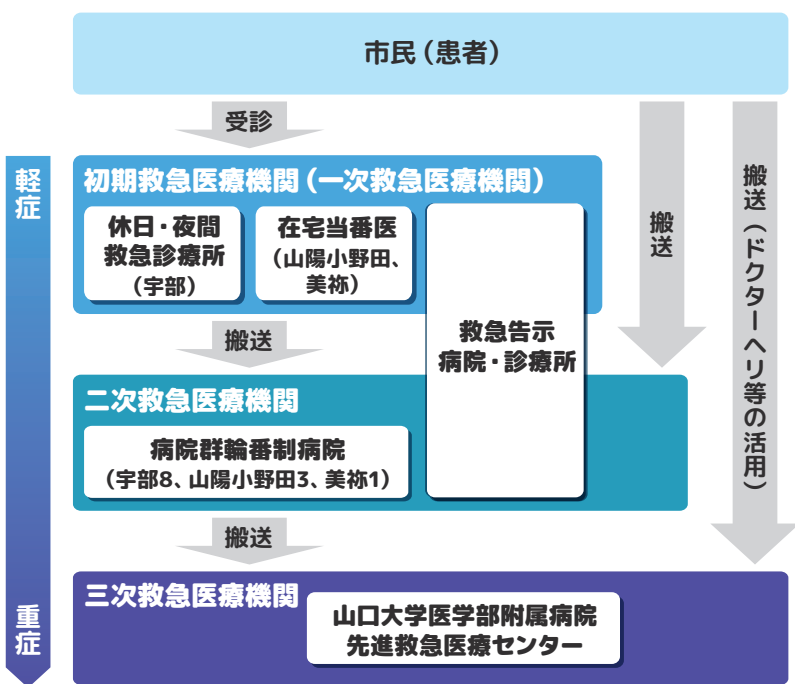
出所：山口県救急医療電話相談 (#7119)、山口県小児救急医療電話相談 (#8000) - 山口県ホームページ (yamaguchi.lg.jp)

救急医療がひっ迫しています

高齢化が進み、救急医療はさらに必要となってきます。一方で医療人材の不足により救急現場の負担も増加し、救急医療提供体制の維持が困難になっています。



● 救急医療体制（一次・二次・三次救急）及び宇部・小野田保健医療圏の概要



初期救急（一次救急）とは

入院の必要がなく、診療後に帰宅可能な軽症の方が対象です。休日・夜間は、「在宅当番医」や「休日・夜間救急診療所」等に対応しています。

二次救急とは

入院治療や手術が必要な方が対象です。主に「病院群輪番制病院」、「救急告示病院・診療所」に対応しています。

三次救急とは

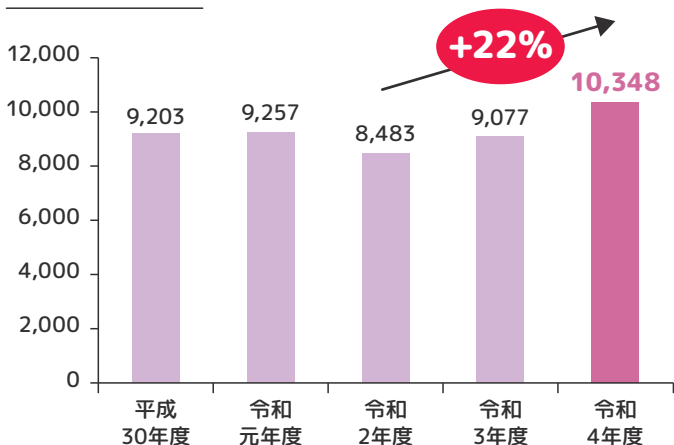
二次救急医療機関では対応できない複数の診療科領域にわたる重篤な方が対象です。主に「先進救急医療センター」に対応しています。



● 宇部・小野田保健医療圏の現状

救急需要の増加

救急搬送件数（件）



医師の高齢化

病院勤務医の平均年齢

平成22年

46.0歳

令和2年

48.9歳

（全国 45.1歳）

救急医療に対応できる若い医師が不足しています！

県内病院勤務医の年齢構成

